

法人理念
法人理念

「 礼に始まり 礼に終わる 」
「 笑顔いっぱい 友だちいっぱい やる気いっぱい 」

1 教育保育目標

心豊かなたくましい子	○げんきな子	○やさしい子	○気づく子
------------	--------	--------	-------

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標

○「教育課程・指導」「安全教育・危機管理」「園内研修の充実」	○基本的な生活習慣の形成
○聞く・話す態度の育成	○道徳性の芽生えを培う

5点:達成されている 4点 :概ね達成 3点:もう少し努力を要す 2点:努力を要

評 価 内 容		前年	今年
改善する力 (教育課程)	①ねらいに沿った保育展開が適切にできている。 (好きな遊び、学級全体の活動、1日の生活の流れ等)	3.6	3.9
	②年間指導計画は、効果的な実践ができる様に作成されている。	3.5	3.4
	③園計画に沿って効果的な学級経営を行っている。	3.5	3.6
	④マネジメントサイクル 計画(P)・実行(D)・評価(C)・改善(A)を行っている。	3.8	3.6
	⑤聞く・話す・やる気・工夫等の 学びの育成 (動と静のバランス・主体性を育む等)	3.7	4.0
	⑥特別支援に理解を深め、一人ひとりの育ちにあった支援を実施しているか (インクルーシブ)	4.0	3.5
	⑦見通しのある保育展開が適切にできている。 (長期計画を見通しながら具体的な目標を達成していく)	3.6	3.7
成) 幼児の健全な育成のための 環境を整える (環境の構	①掲示物、名前の表示などは人権に配慮したものとなっている。	4.6	4.4
	②朝の環境構成ができている (保育室の換気、遊びの場、必要な教材の準備など)	3.7	4.2
	③保育室の美的環境・保健衛生に配慮している。 (整理整頓、手洗い場、ゴミ箱、ピアノの上)	4.0	3.8
	④絵本棚に置く絵本などを幼児の興味・関心や季節に応じて変化させている。	3.7	3.5
	⑤季節に応じて幼児の作品や自然物を取り入れて構成し変化させている。	3.6	3.6
	⑥動植物に興味や関心が持てるように栽培をしたり、環境を整えて記録をとっている。	3.4	3.6
らい等に適した 援助	①明るい笑顔で幼児を向かえ、一人一人とコミュニケーションをとることに勤めている。	4.5	4.6
	②明るく元気に園児と遊び、活動が発展するような工夫や構成を考えている。	4.2	4.3
	③歌の指導や楽器の扱い方の指導ができている。	3.7	3.5
	④遊びの片付けや身辺自立に向けた生活習慣に関わる指導が適切にできている。	4.1	4.3

	⑤絵・製作の指導や用具の扱い方の指導ができています。	3.8	3.9
し、保護者に適切に対応し、協力していく力 (保護者との連携)	①保護者に進んで挨拶をしたり話しかけたり、コミュニケーションをとるように努めている。	4.2	4.4
	②保護者会や個人面談などに資料を準備し臨み、話し合いができるようにしている。	4.3	3.6
	③クラス便りやホワイトボードにて遊びの様子や成長を共感できる様に伝えている。	4.0	4.4
	④保護者からの質問に誠実に対応し、適切な説明に努めている。	4.2	4.1
学び・発達の見通す力 (保・こ・小の連携)	①小学校との連携を図るため、具体的な取り組みを行っているか	3.1	3.3
	②地域の保育園や小学校と連携を図り、就学前教育に向けて交流活動に努めている。	2.9	3.0
	③地域を学習の場にしたり、地域の人材を活用したりしている。	2.9	2.8
	④小学校就学までの連続性を考えて、見通しを持った保育・教育の取り組みをおこなっている。	3.5	3.9
学級経営に関わる事務を処理する力 (学級事務)	①学級事務の内容や取り扱いについて把握できている(出席簿、健康診断票など)	4.1	4.1
	②子ども園園児指導要録、抄本に記載する事項および記入・提出時期を把握している。	4.2	4.4
	③公簿(幼児出席・幼児健康診断票・指導要録等)を適切に記録し、保管している。	4.4	4.2
	④情報の共有化がなされ、周知する文書・報告等を速やかに伝達している。	4.2	4.2
園務に 企画・立案する力 (園務分掌)	①担当分掌の仕事を企画立案し、責任を持って遂行している。	4.0	4.0
	②園行事の準備や指導に積極的に取り組んでいる。	4.1	4.1
	③計画書・報告書・記録などの作成に際して、ゆとりをもって提出している。	3.7	3.8
	④園務分掌はリーダーシップを発揮して、園務の処理に当たっている。	3.6	3.2
上司や同僚と適切な コミュニケーションを 図り、円滑に園務を 遂行できる力 (職員間の連携)	①自分から進んで職員に明るく挨拶をしている	4.2	4.4
	②悩みやわからないことを園長や主幹・他の職員に自分から相談している。	4.3	4
	③自分から積極的に他の教職員との協力・共同に努めている。	4.3	3.9
	④研修を通じて学んだ知見を園内で共有するよう努めている。	3.5	3.4
幼児が安全に過ごせる環境を整える力 (安全教育)	①保育室・遊戯室・園庭等の使用の前に安全点検や確認をしている。	3.8	4.4
	②園児の事故や怪我に対して園長に報告し、職員間で連絡を取り合い迅速に対応している。	4.3	4.4
	③災害時の避難方法について把握できている	4.0	4.2

必要な機関と連携 がとれる力(関係諸 機関との連携)	①特別な支援を必要とする幼児への対応について、関係諸機関の連携を取る。	4.0	3.8
	②家庭や地域での遊びや生活も考慮して指導計画の立案や指導を行っている。	3.7	3.8
	③地域で活躍している方、地域の行事、公園、児童館、図書館、公民館など地域の資源を活用するための情報収集に努めている。	2.7	2.8

保育教諭として 求められる能力 (自己研鑽)	①具体的に保育を構想するする力や実践力を磨く為、自ら生活体験や自然体験、社会奉仕体験を積むように努める。	3.5	3.1
	②指導力を高める為、運動遊びや読み聞かせ等自らの得意分野の向上・開発に向け取り組んでいる。	3.9	3.4
	③インターネットなど情報通信技術を活用して、情報の収集や発信ができるように基礎を学んでいる。	3.7	3.5
	④社会の変化やこども園に対するニーズの変化を適切に捉える力を身に付けるよう努めている。	3.6	3.4

指導に適した準備・ 整える(教材開発)	①指導や遊びに必要な教材を自分で作っている。	3.5	3.9
	②園児の発達や活動に沿った指導や教材の準備ができています。	3.6	3.8
	③ピアノ。演奏の技術が高まるように練習している	4.0	3.5
	④自分が得意とする技術をより向上、開発するよう努めている。	3.8	3.5

意見・感想・反省・問題点・改善点・良かった点等

- ・クラスの事には慣れ、責任感も持てるようになってきたが、まだまだ難しいと感じる場面もたくさんあり、保護者対応も悩むところがある。安全面ばかりを配慮してしまうと一緒に遊ばずに見守るだけになってしまうので、バランスを取って保育ができるようにしていきたい。子どもが自主的に活動できるような環境構成や声かけの仕方を工夫したい。
- ・一人一人の子どもたちとコミュニケーションをとったり、遊びを通して信頼関係が築けていると感じた。前期の反省で、子どもたちがメリハリをつけていけるように伝えていくということは、少しずつ伝わってきていると思うので引き続き行っていきたい。また、保育教諭として求められる能力を磨いて身に付けていきたいと思った。
- ・前期では、分からないことだらけで周りの保育教諭の動きを見て参考にしたこともあり、後期では「自分だったら～」と、自分なりに考えて子どもと接することが出来、全く関わりが少なかった子どもともたくさん関わる事が出来た。後期では、書類を頑張っていきたい。また、いけないことや、よかったところは、どんどん伝えていきたい。
- ・子ども達が余裕をもって行動等に取り組めるようにしたり、あまりプレッシャーを感じないように保育教諭が余裕をもって接したり、指導できれば良かった。
- ・前期とあまり変わらない評価も多かったが、意識しようと頭に入れていた事は実践できた。保育は子ども達だけでなく、保護者や地域、環境や教材の準備、工夫、安全管理や個々の特性理解、職員間の連携や自分自身の向上心等の様々な事柄を考えていかないといけない事を改めて感じた。
- ・ひとりひとりに合わせた声掛けを意識して行ってきた事で、子どもたちとの信頼関係が築けてきた。季節の歌をもう少し取り入れて、いろんな歌が歌えるようにしていきたい。

- ・保育教諭同士、よく話をするように心がけ、保育の相談事も積極的にするようにした。園全体的に保育教諭間の連携がとれてきたなと感じる。季節の歌等ピアノをもう少し練習したい。
- ・自然物についての環境構成や、季節にあった絵本を置く等、子ども達が興味、感心を持てるようなコーナー設置や、掲示物の工夫が必要だったと思ったので改善していく。
- ・やりたいことが多いのか？仕事量が多くいつも忙しい。同僚とのコミュニケーションが少ない。仕事は楽しい、子どもたちと関わる時間はとてもワクワクする。保育の本を読んだり、自分の保育をよりよくしようとしていた。
- ・今年度は、途中から午睡時間にうみ組に入るようになったが、それまであまり関わる事がなかったので、だいぶ緊張しました。特に、支援をしなければならない子に対しての対応は難しかった。担任から状況を聞いたり、疑問に思った事は担任に話したり相談して解決していくようにしていったが、ハードだった。にじ組の対応の難しい子に対しての関わりは、担任と連携して同じ対応をしていく事ができたと思う。
- ・後期では遊びの発展を重視してきました。まだ上手くいかない事が多く、子ども理解や子どもの声を拾う力が弱い事を実感しましたが、前期と比べると成長している実感はあるので、今後も挑戦していきたいです。後期の反省としては、担任同士の連携が上手く出来ず、園生活や行事にひびいてしまった事があるので、担任同士での意思の疎通を図り、子ども理解を深めたり、保育の質を上げられるようにしたいです。あと、前期と比べると、計画が上手く立てられずバタついてしまう事もあったので、計画を立てることも見直していきたいです。